



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年10月30日

上場会社名 株式会社Aiming 上場取引所 東
 コード番号 3911 URL <http://aiming-inc.com/ja>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 椎葉忠志
 問合せ先責任者（役職名） 取締役経営管理グループゼネラルマネージャー（氏名） 田村紀貴（TEL）03(6672)6159
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年12月期第3四半期の業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	8,193	92.8	1,256	—	1,241	—	1,060	—
2019年12月期第3四半期	4,250	—	△666	—	△676	—	△764	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年12月期第3四半期	28.13		27.84					
2019年12月期第3四半期	△21.71		—					

（注）当社は、2019年12月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2019年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。また、2019年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,844	—	4,355	—	74.5	—
2019年12月期	2,249	—	1,107	—	49.2	—

（参考）自己資本 2020年12月期第3四半期 4,355百万円 2019年12月期 1,107百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2020年12月期	0.00	0.00	0.00	—	—
2020年12月期（予想）	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,629	106.0	1,557	—	1,538	—	1,310	—	34.75

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	39,571,100株	2019年12月期	36,233,600株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	0株	2019年12月期	781,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	37,700,134株	2019年12月期3Q	35,201,576株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 四半期財務諸表及び主な注記	2
(1) 四半期貸借対照表	2
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(セグメント情報等)	5
2. その他	6
継続企業の前提に関する重要事象等	6

1. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	860,225	3,306,233
売掛金	643,113	1,537,018
仕掛品	76,098	198,444
コンテンツ	109,044	99,569
貯蔵品	258	235
その他	145,992	387,641
貸倒引当金	△77	△34
流動資産合計	1,834,655	5,529,107
固定資産		
有形固定資産	1,918	3,694
無形固定資産	481	—
投資その他の資産		
敷金及び保証金	409,131	308,659
その他	2,994	2,994
投資その他の資産合計	412,126	311,654
固定資産合計	414,526	315,348
資産合計	2,249,181	5,844,455
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,325	129,809
1年内返済予定の長期借入金	375,180	—
未払金	283,575	467,734
未払法人税等	30,093	209,250
未払消費税等	74,073	202,308
賞与引当金	—	29,315
その他	240,369	326,926
流動負債合計	1,066,618	1,365,344
固定負債		
長期末払金	75,065	123,429
固定負債合計	75,065	123,429
負債合計	1,141,683	1,488,774

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,304,854	4,282,082
資本剰余金	3,294,854	4,272,082
利益剰余金	△5,130,824	△4,198,484
自己株式	△361,386	-
株主資本合計	1,107,498	4,355,681
純資産合計	1,107,498	4,355,681
負債純資産合計	2,249,181	5,844,455

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	4,250,402	8,193,956
売上原価	1,907,513	2,831,628
売上総利益	2,342,888	5,362,327
販売費及び一般管理費	3,009,671	4,105,461
営業利益又は営業損失(△)	△666,783	1,256,866
営業外収益		
受取利息	194	170
受取手数料	1,410	872
補助金収入	3,650	31
備品売却収入	—	1,955
その他	1,648	285
営業外収益合計	6,904	3,314
営業外費用		
支払利息	7,299	1,288
為替差損	5,447	10,439
株式交付費	3,525	6,531
その他	276	6
営業外費用合計	16,548	18,266
経常利益又は経常損失(△)	△676,427	1,241,914
特別利益		
固定資産売却益	11	—
新株予約権戻入益	14,400	—
特別利益合計	14,411	—
特別損失		
特別退職金	85,385	—
特別損失合計	85,385	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△747,401	1,241,914
法人税、住民税及び事業税	17,083	181,235
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	17,083	181,235
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△764,484	1,060,678

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の権利行使による新株式の発行および自己株式の処分を行い、資本金および資本準備金がそれぞれ977,228千円増加し、自己株式が361,386千円減少しました。

その結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が4,282,082千円、資本剰余金が4,272,082千円となり、当社保有の自己株式はすべて処分いたしました。

(セグメント情報等)

当社は、オンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、第2四半期累計期間まで継続して営業損失、経常損失、四半期（当期）純損失を計上しました。こうした状況により、第2四半期まで継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、これらの事象又は状況に対処すべく対応策を実施いたしました。

2020年7月16日に株式会社スクウェア・エニックスとの共同開発タイトル『ドラゴンクエストタクト』の正式サービスを開始し、売上高が四半期を通して高い水準で推移しました。本タイトルにつきましては、翌四半期以降も、継続して業績に貢献することが見込まれております。

また、サービス中タイトルの減少と開発中タイトルの本数を鑑み、台湾スタジオの従業員数の最適化を実施しました。さらに、2020年4月1日を効力発生日として、株式会社ドキドキグループワークスへ大阪スタジオを譲渡しており、人件費や拠点維持にかかる費用が削減された結果、当第3四半期累計期間の業績は、営業利益1,256,866千円、経常利益1,241,914千円、四半期純利益1,060,678千円となりました。

財務面につきましては、当第3四半期累計期間までにおいて、2020年3月6日に発行した第7回新株予約権のすべての行使が行われ、2,118,534千円の資金を調達したことにより、手元資金の状況は改善されました。なお、手元資金の状況は改善されたものの、ゲームタイトルの開発やサービス中タイトルの運営には多くの資金を必要とするため、今後も市場の状況を鑑みながら、必要に応じて様々な資金調達方法を検討してまいります。

以上を踏まえ、当第3四半期会計期間末において、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、解消したと判断しております。